

非暴力直接行動

No. 116
5/8 '81

戦争抵抗者インター日本部・大阪市阿倍野区旭町2-12-2 ウリ大坂 発行

114号

戦争に反対する女性の手紙集



前号(七月十日発行と六月五日発行と114号が二回重複したので正しくは115号となる)について10人ほどの読者から感想をもらった。ありがとう。
「反戦と革命戦争あるいは国家の向題」「女と反戦の向題」「非暴力直接行動の向題」とそれぞれ触れ方がちがうのをえらんで、抄出、紹介します。 F&K

I 本末を転倒してはならないだろう

Y・A

反戦とは、侵略や圧政に反対する事であり、侵略や圧政を無くする事ができるなら、何を好んで人民は戦争をするであろう。それが、たとえ革命の為とはいえ、何を好んで人民は戦争を正当化する必要があるだろうか。全ゆる革命掲げや社会主義イデオロギーも、人間とその解放の為に追求される思想的手段に過ぎないのであり、我々は本末を転倒してはならないだろう。解放戦争を支持するかどうかではなく、如何に侵略をやめさせ、圧政を無くす事ができるかではない。解放の熱の戦争が現に存在するからと言って、その戦争を支持し、それ以外の方法を見いだせないとしたら、それは我々の想像力の貧困である。暴力は、暴力に抗する事によつてのみ是認される。だが、それは決して正義なのではない、誤解を恐れずに言え、何時、如何なる形であれ、それが革命の名の下にあるとはいえず、戦争を美化し、人殺しを正当化するような思想は、人民の悲願、ひいては革命の真の目的を裏切っていくものである事を肝に銘じて欲しい。



II 同じような議論

S・M

「女と反戦」の時の話を読んで思ったことは、「死刑廃止の会」でも同じような議論しているな、ということでした。たとえばアウツェビッツで人をたくさん殺したナチスの残党が死刑になったらうれしいのどちらがどうか……

でも私は、いつか殺されるのは私たちなんだから、なにも善悪者を死刑にする場面がもし生じたら、なんてことは考える必要はないと思います。……戦争の場合でも、「解放戦争」といわれるとウツとつまるけれど、以前新聞がなにかで、「沖繩の人が次のようなことをいっていたのを思い出します。「もし兵隊が町に攻めこんできてもその町に一人の兵士も、また兵士に通じているものもないということがあれば敵の兵隊は我々を殺さないだろう」つまり、もし私が革命だとか解放だとかのために武器を手にするならば、そのときは、私の意志とは全く無関係な人まで、まぎせえにして殺してしまふ覚悟がいるのではないか」ということです。……

III 政治家と同じ土俵

Y・A

本当に大切なことは、戦争・暴力・権力に対して、は、きりした立場をとることだと思います。最近、防衛論・国際政治の中の日本といった論議がうるさい折、人々が評論家や政治家と同じ土俵でマウロ的に語るというところは、その自分分の生き方から離れた話になってきているようです。自分自身の感情や生きかたをいかにげんじてしまつて……。

IV 母の話

……女が戦争にすすんで協力したのは、女の中にある男の論理が、女の感情をうち消したからだと……



……あります。これだけであるとは思えないのです。母の話をききますと、男女にかぎらない。人間の社会性がはたらいていたように思ふのです。母にとってもそのまわりの人たちにとっても、政府のかけたスローガンは、ほとんど関心のないものでした。天皇は雲の上だし、國家は憲兵とか徴兵とか歓迎されていなくて、「お国のため」とは、自分の身の回りとかくれば大した意味もなかったようです。なのに、なぜ戦争に協力したかというところ、……「なんとなく流されて」というのもあるでしょうけど、「みんなだまどまつてひとつのことをやりたかった」「世の中の役に立ちたかった」「自分が属している社会（共同体）が、アメリカにおしつぷられるのはいやだった」という理由も強かったようなのです。……「人向の社会性を國家がからめとったのだ」ともいえるでしょうけれど、単に、「國民がだまされて自た」とか、男社会とかをもち出すだけでは解決がつかないのではないかと思います……

M・O

▼今号・前号についてあなたの感想をかかせて下さい。▲

~~4-25~~

3-4頁 不明

自分も被害者にならない理想

▼「戦争はいやや」と誰でもいう。これほど当りまてで、百人が百人みくんの声が一致するものは、他にあまりない。がその比例で反戦(運動)が大きくならないのはなぜか。

▼「戦争はいやや」と誰もがいうとき、それが運動となるとやはり、「いや、ちやうとまで。一体それはどういうことやねん。そんなら革命戦争は……」という、まあちやうとした評論家ふうの人もでてくる。革命戦争はもちろん支持しなければならぬというわけ、で、「戦争はいやや」が、とまごつてしまふ。

▼「戦争はいやや」のはじまり。あるいは原点としてあるのは「被害者の発想」又はその「立場」だろう。それが一歩のみたして「反戦」となる過程で「被害者の立場」又は「視点」が出てくる。つまり「人殺しはいやや」である。

▼たとえは「女一殺者」と反戦の場合、当初は被害者の発想である。それが、女もまた戦時中を生き延びて後を守り、戦争に大なり小なり加担した「加害者」の一員だったことが

はつきりしてくる。そこで被害者の「殺されるのイヤヤ」にあわせて、加害者の「殺すのイヤヤ」をひとつにして「新しい戦争イヤヤ」が、改めて出てくることになる。つまり「へどんな戦争にも反対」



というとき、「自分は加害者にならない」という意をも表現しているのである。



▼では、「革命戦争に対しては」と向う人たちの「反戦」とは、一体どんな構造なのだろうか。彼女たちへ彼女たちは、もちろん、被害者の「戦争はいやや」を否定するのではない。「E」がそれ以上に彼女たちをこうえている被害者の発想又は「立場」がある。そして、それだけで「加害者の発想」や「立場」をも占めないということがある。

▼その「被害者の立場」は、マルクス用語を使えば「階級闘争」ということだろう。あるいは(本書三頁下段終り三行目)「マラテスタのいうへ奴隷の状態」である。そして自らを解放するために支配し圧迫するものとの闘いを当然とするところにおいて、帝国主義戦争に反対する。その部分では、反戦は同じだ。

▼だがその場合、彼女たちを動かしているものは「イデオロギ」であり、具体的には自分の所属する組織、党派、国家などの集団であつて、個的で素朴な「戦争はいやや」ではない。

それゆえに、自分を加害者とする立場からの視点、「人を殺したくない」「自分は加害者にならない」という、個的な反戦の視点を欠除している。そこで「へどんな戦争にも反対」でなく、場合によっては「反戦」となる。(つまり根拠があるのは国家的視座である)その意味で厳密には、この人たちの活動は「革命」へ「解放」運動であつたとしても、「反戦」そのものではない。

▼さて、「へどんな戦争にも反対」が、個人的な「戦争はいやや」という「被害者の視点」だけであるとき、情緒としていくら一般



化しても、おそろしくへカへにはならないだろう。それらの人たちが、自分の意志如何にかかわらず、いつ何時でも自分が加害者に仕立てられる存在であることを自覚し、積極的にそのへ自分と闘うこと、自分を操るものへの先制的闘いをつくりだすうごきがへ反戦である。いいかえると、へ個的へへ加害者の視兵を、よく意識し、それを積極的に運動に転化する。そこから具体的課題をも見つけだすことへ反戦は運動として動きだすのである。

向井 寿

▼ 七年前につくったものですが、右の川文を具体的に補足するものとして、ウリ日本部の「WR日本」の宣言へメンバーの任務などを同封します。
 なお、護国士で共闘して下さった方が、メンバー又は支持者になる旨、表明して下さい。望外のよろこび。ついでにすでに一と表明した方も、再確認の意味で、ハガキでお応え下さい。
 —ウリ事務所、水田ぶう宛—



★ ウリの台言葉は、何かしつてますか。

★ への手へへのりへはキツデも切れぬ仲、なきていうのは下手なシヤレだが、それを使用するへのりへは、ぶつらの文房具屋なら

守利乃奈加乃乃安以古登改喫天尔乃里我

どこでも売つてる。ブエキノリが最良である。化装のりは絶対だの。ところで、切手の裏ならともかく、何枚、表面にのりをぬるのか、と聞かれたらぼくはこう答える。① 切手がはかれると郵政不足で失かに迷惑をかける。② 肩の取扱をわるい責任をとられる③ 切手がはかれるのは、周縁部がよくついていないからである。④ 周縁部を密着するためには、例之は、ホスターなど、ハケで表面からぬるように、切手も表面からぬつておくと、郵送途中でもはかれるおそれがない。⑤ 切手の表面にのりをぬるのは、つまり郵便事業を助けてるようなもの。★ 何にしても手抜きして、ちやらんぼらんやりかてはダメ。面白半分なんて人は「革命」を口にする資格なんてない。

★ 8月22日午後8時(日夕刻)三田田日(非暴力トレーニング)グアミナー合宿にまきせんか。(くわしくは問合せを)

★ 東アジア反日武装戦線の控訴書を支援の意志を表明するための、支援連絡会議ニュース(毎月末発行)有料購読者になつて下さい。年割、千二百円、おながいします。(向井)

★ 反原発新聞 年割二千円。尚8月6日発行特別号外は「資料特集」と銘うつて、例之は、原発の種類としくみ、主な事故、原発推進機関関係図、日本核燃料サイクル地圏等々、グラフと図表など満載、一部二百円(送料)買つて下さい。(向井)

振替口座 大阪三三七七七 ウリジャパン 向井 寿